(地独)府立環境農林水産総合研究所評価委員会 第２期中期目標期間各事業年度評価の状況

R01.07.08

資料６

H28、H29年度評価：全体として年度計画及び中期計画のとおり進捗（各項目評価：A）

H28年度

【全体評価】
○内閣府の「地方創生拠点整備交付金」を活用した**ブドウ研究拠点整備に着手し、府内ワイナリーおよびブドウ生産農家支援強化を開始した**。【※１】
○アスベストの分析法について、従来4時間のサンプリングが必要であったところ、サンプリング時間を短縮（2時間以上4時間以下）しても信頼性のあるデータが得られることを確認した。これにより**大阪府生活環境の保全等に関する条例施行規則の測定法が改正され、府の指導迅速化に大きく貢献**した。【※２】
○**総合的病害虫・雑草管理（IPM）マニュアルの作成**に加え 、**想定以上の殺虫剤使用量削減の実証まで行う**ことで、高品質で安全な農産物生産のための技術の開発を行った。【※２】
○新棟整備による環境科学センターの移転・機能集約を契機として、分野の異なる職員がコミュニケーションを密にし、**それぞれの強みを融合できる体制づくりに努めたことや、業務効率化を推進したことは評価**できる。【※２,４】
○外部研究資金の獲得や適正な管理を支援するため、新たに**研究支援室を設置**。外部研究資金に積極的に応募し、**数値目標【外部資金に係る実施件数と応募件数の合計75件】を達成し、採択率も32％と高水準を維持**した。特に、代表研究機関として応募した「水ナスの低コスト複合環境制御による安定生産の実証」では、**大型の調査研究資金を獲得**した。【※４】
○大学院就学支援や研修派遣を実施し、**職員の調査研究力を強化**した。また、優秀職員の表彰を実施し、**職員のインセンティブ向上を図った**。【※４】

【委員からの指摘等】
○６次産業化支援にあたっては、商品化を見通した案件の採択やコスト面など**商品化された後の展開も視野に入れた商品開発など、実効的な支援に努められたい**。【※２】
○今後とも、より**「質」の高い調査研究**を重ねるとともに、**学術論文、学会等発表や外部研究資金獲得**などにおいて主体的、積極的に取り組むなど、**一層の努力を期待**する。【※２,３,４】
○農業大学校における**教育内容のさらなる充実**に向け、養成料の見直しを含め、引き続き運営改善についての検討を進められたい。【※３】
○コンプライアンス、情報セキュリティ等に関する職員研修の実施にあたっては、e-ラーニングの活用等、**必要な研修情報が遺漏なく伝達されるように工夫されたい。**【※４】

H29年度

【全体評価】
○ブドウ関連産業活性化にむけた研究拠点となる**「ぶどう・ワインラボ」の整備**等、技術支援・相談体制の充実を図るとともに、**特定外来生物であるクビアカツヤカミキリの**発生に伴い、**被害対策手引書を作成する**等、緊急時での迅速な対応を行った。【※１,２,３】
○２０～３０㎞毎にしかないアメダスデータに対し、府域の1㎞メッシュでの気象データの算出は、詳細な領域ごとの**温暖化適応策を見据えた農業の栽培管理等に直結した活用が可能となる成果が得られた**。【※２】
○**学術論文数や学会発表件数の目標値を大幅に上回る**とともに、生物多様性分野において**関西の自然生態系分野を代表する学術誌の賞を受賞**する等、外部からも研究成果が評価された。【※２,３】
○環境・農林水産分野の公設試験研究機関として、**質の高い調査研究**に加え、府民の安全・安心に寄与し、また**新しいプロジェクトについても積極的に取組んでおり、安定的な運営が図られていることは評価**できる。【※２,４】施設の新設や建替えを期に、今後も、**総合研究機関としての強みを活かし、更なる取組みに期待**する。【※２】
○平成２８年度に設置した研究支援室が中心となり、**外部研究資金の応募数・採択数・採択率・獲得資金額を増加**させる等、研究資金獲得のための体制を充実させた。【※４】
○電力調達手法の見直しに取り組み、**電力料金単価を約３０％削減**し、コスト削減による健全な財務運営の実現に資することができた。【※４】

【委員からの指摘等】
○アメリカミズアブの研究については、**本格的な実験段階に入ったことは評価**しており、今後の成果に期待したい。【※１】
○「ぶどう・ワインラボ」の設置により、今後研究所におけるブドウに関する研究が進むが、ブドウの品種や醸造に係る研究は長期間に亘るため、**ワイナリーや農家との連携を密にしながら、研究所の取組みの柱の一つとして今後も根気強く取組まれたい**。【※１,３】
○クビアカツヤカミキリの被害拡大防止にむけて、様々な取組みをされているところだが、**府民の安全・安心に係ることから引き続き対応を進めていかれることを期待**する。【※２,３】
○研究成果が出たときはプレス発表等、**積極的な広報**に努められたい。【※３】
○**地域の団体ともさらに連携を深め、地域の課題を掘り起こし**ていただきたい。【※３】
○インフラ整備や大規模改修は計画的に取り組んでいくべきで、**老朽化している水産技術センターについても、計画的に修繕を進めていただきたい。**【※４】

◆上記を踏まえた第３期中期目標策定に係るポイント
1．ぶどう・ワインの研究を始めとした、これまでに着手した研究を更に伸ばしていくよう取組を強化する。
2．各研究分野が連携の効果を高めていき、総合研究所として地域の持続可能な発展と安全安心な生活を目指すため、質の高い調査研究を行う。
3．地域とのネットワークを構築し、連携を進め、知見収集・技術開発と研究成果等の積極的な情報発信に取り組む。
4．引き続き積極的な外部研究資金の獲得等による自主財源の確保やコスト削減、育成等による職員の資質向上、施設の効果的・効率的な運用等、安定的な経営に努める。